

(様式2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名	水源地域等保安林整備		路河川名等	—			
事業毎の通番	2	市町村名	根羽村	箇所名(ふりがな)	外山(そとやま)		
事業概要	事業目的	平成26年2月の大雪により、根羽村の森林は大きな被害を受け、根倒れした倒木等により多数の無立木地や崩壊地が発生したほか、複数の溪流も荒廃し、溪流内には倒木や土砂が堆積する状態となった。根羽村は、矢作川の源流域に位置し、愛知県の重要な水源域となっていることから、早期に保安林の機能を回復する必要がある。このことから、根羽村全域を計画区域とし、村内に点在する荒廃地の早期の復旧を図ることを目的とする。					
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1地域防災力の向上		事業実施の根拠法令等	森林法		
	関連する事業、計画等	造林事業(森林所有者が実施主体)					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家 6戸、国道 150m、県道 100m、村道 200m、一級河川 150m、林道 300m					
	着手年度	平成27年度	事業期間	5年間			
	完成年度(見込み)	平成31年度	費用対効果	3.0			
	全体事業内容 (主な工種)	谷止工7個	事業費 (千円)	財源内訳(千円)			
		森林整備150.0ha		国庫	140,000	県債	126,000
	27年度事業内容 (主な工種)	森林整備20.0ha	9,000	4,500	4,050	450	
	事業効果	直接的効果 (定量的・定性的)	人家6戸、国道150m等を保全				
間接的効果 (定量的・定性的)		山地の復旧による水源域としての涵養機能の発揮及び土砂の流出防止					
評価の視点	必要性	○人家戸数:	6戸	評価	B		
		○公共施設数:	4施設 国道・県道・村道・一級河川				
	重要性	○災害時要援護者関連施設の有無:	無	評価	A		
		○保安林・林業用施設:	80%(水源涵養保安林)				
		○過去の災害履歴:	H26.2 雪害				
	効率性	○交通遮断による地域経済への影響:	国道153号	評価	B		
○地域防災計画上の位置付け:		山腹崩壊危険地区、崩壊土砂流出危険地区 急傾斜地危険区域、土石流危険渓流					
○費用便益比(B/C):		2.98					
緊急性	○事業期間:	5年間	評価	A			
	○工法等の比較検討:	荒廃林地復旧方法の検討、対策工の検討					
	○流域の総合調整:	復旧方法のエリア分けによる導入事業の調整					
計画熟度	○流域の地形、地質:	領家花崗岩帯	評価	B			
	○平均渓床勾配(平均山腹勾配):	渓床勾配 25°、山腹勾配 17°					
	○下流の堰堤等の整備状況:	あり (谷止工 H4災関、H2復旧、S34復旧ほか)					
部意見	○山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域:	土砂流出危険地区410-1(A)ほか	評価結果	総合評価			
	○事業情報の共有:	事業対象住民への説明会開催予定					
	○地域の取り組み:	下流域住民との復旧への取り組み	○	A			
	○地域の合意形成:	山林所有者、地域住民からの要望					
	○住民との協働:	山林所有者との復旧方法の検討					
	H26.2月豪雪による森林被害が著しく、土砂流出により溪流内に不安定土砂が堆積している。下方に国道等の保全対象があるため、早急に対策を行う必要がある。	行政改革課意見	豪雪による倒木が多数発生している。放置すれば山腹崩壊、溪流荒廃等森林被害の拡大が想定されることから、重要性が高く、緊急性も認められる。				

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)

【整備の必要性がわかる状況写真等】

事業概要説明図表

①事業実施に至る 歴史的経緯・社会的背景	根羽村は一級河川矢作川の源流域に位置し、下流には愛知県豊田市、岡崎市を擁する都市圏があり、主要な水源となっている。過去に伊勢湾台風や度重なる集中豪雨により幾度となく被災している流域では、水源域の保全意識が高く、県境を超えた上下流の交流や支援といった活動が盛んに行われている。雪害により被災した区域内には、愛知県明治用水所有山林も含まれ、下流域からも早期復旧が望まれている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成26年2月の大雪による被災により甚大な被害を受けた山林を中心に、当初より治山事業による復旧が要望されていたほか、地域住民による早期復旧が役場を経由して要望されている。
③事業説明等の経緯	村内に点在する被災森林については、被害度によりエリア分け作業を行い、復旧方法が決定次第、集落単位による住民説明会を開催予定。明治用水保有の山林については、H26年5月、6月に現地調査を行い、その後事務局へも事業説明を行った。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	被災森林のうち、比較的被害が少ないエリアについては、所有者自らが実施する造林事業の導入を図る。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	激害地では、今回の被災原因を考慮した上で植栽樹種を決定し、複層林化を図る。集落周辺の崩壊地を早期に復旧することにより、生活環境における防災力を高めていく。
⑥地域活性化への影響と配慮	被災箇所は国道153号及び主要地方道沿いに点在していることから、多くの住民が目し復旧を望んでいる。また、他県からの観光客も多く往来する道路であるため、復旧することにより地域の活性化に寄与できる。
⑦その他	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 35° 31'636" 東経:E 137° 57'3977"